

NEWS
マルチスライスCT導入!

当院では東三河の公立病院で2台目となる、世界最高水準の64列マルチスライスCTを導入しました。

この装置は64断面(スライス)が同時に撮影できる機能を搭載しています。このCTの主な特徴は①短時間にも広範囲の撮影が可能である、②0.5mm間隔で高精細な画像を撮ることができる、③患者さんの体に優しい、などが挙げられます。



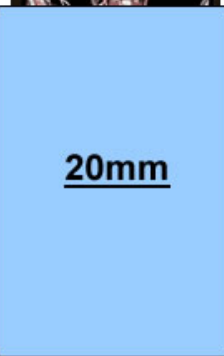
64列マルチスライスCTによる撮影風景

① 短時間撮影

従来のCTと比べ40倍以上の撮影スピードとなります。また、これまでは撮影時に複数回の息止めが必要でありましたが、1回(10数秒)の息止めで撮影が可能となります。

シングルスライスCT

15秒間で撮影できる範囲



撮影条件
スキャン時間：1.5秒
ピッチ：1.0
スライス厚：2mm

64列マルチスライスCT

15秒間で撮影できる範囲



撮影条件
スキャン時間：0.5秒
ピッチ：53.0
スライス厚：0.5mm

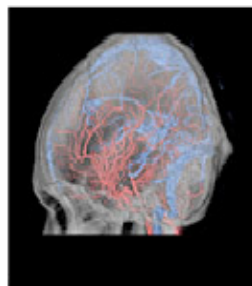
② 高画質

より薄いスライスでスキャンできるようになり、従来のCTでは能力的に限界であった細部の診断情報を得ることができます。また、骨や内臓、血管などの立体的表示ができるため、手術前などの病変・腫瘍の診断能力が飛躍的に向上します。

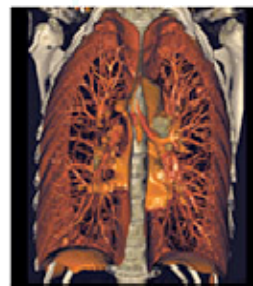
③ 体への負担が少ない

各部位へ自動的に最適な放射線量を放射し撮影することができ、被ばく量を大幅に低減させて検査ができます。また、短時間で撮影が終了するため、造影検査における造影剤量も低減されます。

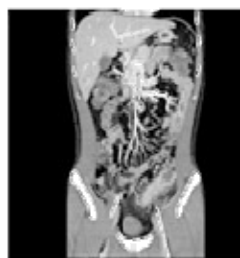
この64列マルチスライスCTを最大限有効活用するため、一般診療だけでなく、肺がんドックでの利用や開業医の先生からの撮影依頼も広く受け付けてまいります。



頭部血管検査



胸部精密検査



腹部臓器検査



脊椎検査



全身検査(胸部・下肢血管等)

尿路結石・前立腺肥大の方に朗報

☆ホルミウムレーザー装置導入！☆

男性は加齢と共に、トイレが近くなる、尿が出にくくなるなど排尿に関する症状が現れる方が多くなり、その原因のほとんどが前立腺肥大症で、70～80歳代の7割以上に存在すると言われています。前立腺は膀胱の下で尿道を取り囲むように位置しており、肥大した場合、尿道を圧迫し、排尿障害を引き起こします。軽症の場合、内服治療が有効ですが、重症になると手術が必要となります。従来、前立腺が大きい場合は、出血や合併症が多くなるため、開腹手術を行っていました。今回ホルミウムレーザーを当院で導入し、大きな前立腺に対してもおなかを切らずに手術「HoLEP」：ホルミウムレーザー前立腺核出術が可能になり、患者さんの手術後の痛みが軽減され、入院期間の短縮も可能となりました。欧米では160の年頃から行われており、手術の安全性、長期治療成績は従来の手術法（TURP）より良好で、もはや主流の治療方法となっています。



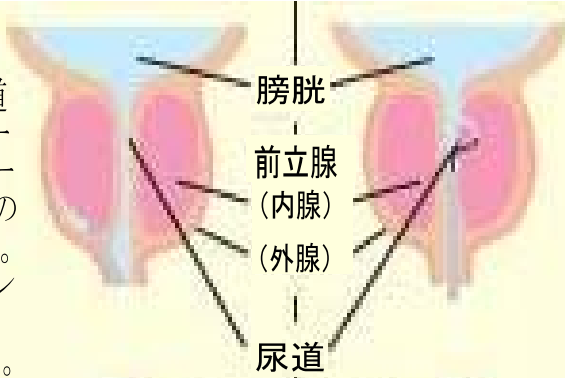
©2007 Boston Scientific Corporation. All rights reserved.

【HoLEPとTURPの違い～治療のイメージ比較】

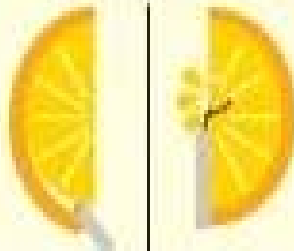
HoLEP

内視鏡を尿道から通し、レーザーファイバーを内腺と外腺の境目にあてる。先端から出るレーザー光で、内腺をくり抜く。

内腺を実、外腺を皮に例えると、皮から剥がすように切除する。実から果汁(血液)があまり出ない。



ミカンに例えると



TURP

内視鏡を尿道から通し、電気メスで尿道側から前立腺の組織を少しずつ切り取る。

実(内腺)の部分の部分を直接切除するため、果汁(血液)が多く出る。

©2007 Boston Scientific Corporation. All rights reserved.

日本全国ではまだ約60施設で行われていませんが、今後普及し、標準的手術法になると注目されています。また、従来の電気水圧式砕石法では割れなかつた硬い尿路結石に対しても、このレーザー装置を用いることで良好な砕石効果が得られるようになりました。これらのレーザー治療は健康保険が適応されていますので、治療費の心配もありません。薬を飲んでいるけど、症状が改善しない方、排尿障害があるけどまだ治療を受けていない方など、一度泌尿器科専門医へご相談ください。

院内地震防災訓練

9月5日(水)、大規模な地震が発生した後、当院に負傷者が来院または搬送されてくる場面を想定してトリアージ訓練を行いました。

トリアージとは、災害医療における多数の負傷者を、その重症度と緊急性によって区分する方法のことです。

今回の訓練では、トリアージタッグの記入方法やトリアージ場所、負傷者の院内での動線などを検証しました。

今回の訓練で出た反省点を踏まえ、防災計画を充実させ、有事の際にスムーズな対応ができるようにしてまいります。

